

「なんでも相談」

090-8489-5260

inouetakashi99@gmail.com

青梅市議会議員

井上たかし

日本共産党青梅市議団



「学校のトイレ新聞」も、ぜひお読みください

@inoue_9

井上たかし
公式 web



活動報告 2026年3月号外

青梅市議会2月定例会井上たかしの一般質問

学校の校舎のこれからについて ～小さな木造校舎の検討を～

青梅市では、現在学校の「再編」が検討されています。私は、「小さな規模でも各地域に学校を残す努力が必要」と訴えてきました。

それでも、校舎の更新の検討は必要です。現在、市内では第二小学校をのぞくすべての小中学校の校舎が築40年を超え、50年超が数多くなっているからです。

新しい校舎を考える際に、「なるべく小規模で、木のぬくもりを感じる校舎にするのがよいのではないか」というのが今回の質問の趣旨でした。

視察先で見た木造校舎

私は、全国の事例を調べ、1月に愛媛県の2つの町の木造の学校校舎を視察しました。内子町の小田小学校(2014年竣工)と、鬼北町の広見中学校(2024年竣工)です。

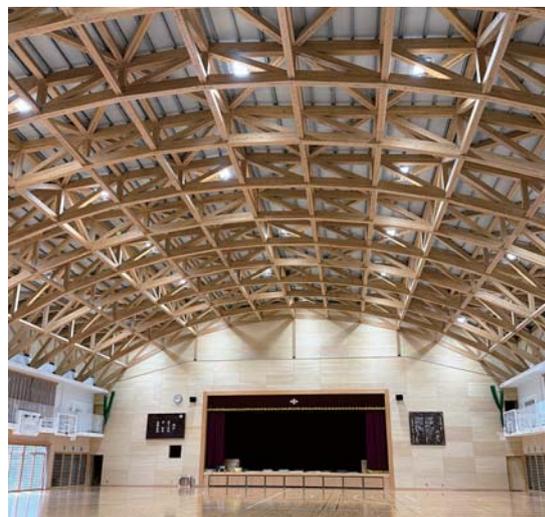
木造校舎は、自然に湿度が調節されるため、窓の結露がなく、カビが生えにくいこと、掃除も掃くだけで簡単なこと、修繕や維持のコストが低いことなど多くのメリットがありました。

そして、なんととっても雰囲気がよくぬくもりと明るさに包まれるような校舎でした。様々な面で環境にも優しく「教育的」な校舎だと感じました。



木造の小田小学校は内装も木がふんだんに使われていて温かい雰囲気、清潔に保たれていました。

愛媛県 広見中学校の体育館。土台は鉄筋コンクリート造ですが、屋根はトラス構造の見事な木造建築でした。



文科省は、「1学年に複数クラスがあるのが適正規模だ」と言いますが、その考え方に縛られる必要はありません。1学年1クラスでも、学校全体の仲が良く、地域のみなさんが参加し、連携している事例は、青梅にも全国にもたくさんあります。

今後も、小さな木造校舎で、自然を生かした青梅ならではの学校づくりをめざすことを求めています。また、大きな規模の学校でも、木造の棟を複数棟にわけて建築するのが、公共施設の更新の手法として有効ではないかと提案しました。現在、あちこちの自治体で大型の公共施設の更新が、資材高騰と人手不足で中断する事態が増えています。「なるべく小さく、分散させる」発想に転換することが必要です。

電子版
あります

スクープ連発！
しんぶん赤旗

日刊紙 3,497円
日曜版 990円

見本紙をお届けします
お気軽にお申しつけください。

日本共産党 Web Site

党の綱領や活動、赤旗見本紙のお申し込みなどはこちらから

